

〔早稲田大学百五十年史〕

編纂事業の進捗状況

畹 田 修

はじめに

百五十年史編纂事業の進捗状況報告の九回目である。今回は、二〇一八年一〇月から二〇一九年九月末まで（二〇一八年度後期と二〇一九年度前期）の状況を報告する。以下、編纂委員会、編纂専門委員会、第一巻編集会議での議論を中心に説明していきたい。

一 二〇一八年度後期の状況

(一) 各委員会・会議の概要

二〇一八年度後期(二〇一八年二月～二〇一九年三月)は、編纂委員会が一回、編纂専門委員会が二回、第1巻編集会議が二回行われた。以下、各回の概要(日程、議題等)を開催日順に示す。

○第1巻編集会議(第一〇回) 一〇月二三日、一二時三〇分～一四時、九九号館(STEP21)六階会議室にて開催。
会議メンバーの出席者は九名。

〈協議事項〉 1. 執筆状況等の確認の件／2. 執筆内容の検討の件

○編纂専門委員会(二〇一八年度第三回) 十一月六日、一二時一五分～一三時五〇分、九九号館(STEP21)六階会議室にて開催。委員の出席者は六名。

〈協議事項〉 1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆の件／2. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針の件／3. 校閲・校正の方法の件

〈報告事項〉 1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻編集会議の報告の件／2. Wikiシステム構築・運用の件／3. Web版資料集の件／4. 資料調査・収集状況の件／5. 法人会議資料の目録化・デジタル化状況の件／6. 大学関係者聞き取り調査の件／7. 早稲田大学大学史セミナーの件

○編纂委員会（二〇一七年度第二回）二月四日、一二時一〇分～一三時、大隈会館N二〇一会議室にて開催。委員の出席者は一二名。

〈協議事項〉 1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆に関する件／2. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針に関する件／3. 校閲・校正の方法に関する件

〈報告事項〉 1. 早稲田大学百五十年史編纂委員会に関する件／2. 早稲田大学百五十年史編纂専門委員会の報告に関する件／3. 『早稲田大学百五十年史』第1巻編集会議の報告に関する件／4. Wikiシステム構築・運用に関する件／5. Web版資料集に関する件／6. 資料調査・収集状況に関する件／7. 法人会議資料の目録化・デジタル化状況に関する件／8. 大学関係者聞き取り調査に関する件／9. 早稲田大学大学史セミナーに関する件／10. 執筆担当専任教員の負担代替に関する件

○編纂専門委員会（二〇一八年度第四回）二月二六日、一四時～一五時五五分、九九号館（STEP21）六階会議室にて開催。委員の出席者は六名。

〈協議事項〉 1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆の件／2. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針の件／3. 校閲・校正の方法の件

〈報告事項〉 1. Wikiシステム構築・運用の件／2. Web版資料集の件／3. 資料調査・収集状況の件／4. 法人会議資料の目録化・デジタル化状況の件／5. 大学関係者聞き取り調査の件／6. 早稲田大学大学史セミナーの件

○第1巻編集会議(第二回)三月二十六日、一〇時三〇分～一二時一五分、九九号館(STEP21)六階会議室にて開催。
会議メンバーの出席者は一〇名。

〔協議事項〕 1. 執筆状況等の確認の件 / 2. 執筆内容の検討の件 / 3. 原稿編集の件

(二) 各委員会・会議での議論の内容

以下、各委員会・会議での主な議論を適宜項目に分け、まとめていく。

① 編纂体制

理事、教員部長の交代にともない、新たに編纂委員長、編纂委員(あわせて二名、ともに一号委員)が就任した。

② 編集・執筆の進展

第1巻については、構成や分担の調整をしながら具体的な執筆を進めるとともに、校閲・校正の方法についても検討した。また、原稿執筆のプロセスのなかで資料の確認・収集が必要な場合は、事務局がフォローする仕組みを考えた。第2巻については、主に構成案の検討を進めた。また、これまでに議論してきた重要事項(大学紛争(一九六八年以降)、商学部「不正入試」、新キャンパス論争)については、構成案のなかに位置づけあらためて検討を加えた。

③ Wikiシステムの構築・運用

通常版については、仕様が確定し次年度よりシステム構築に入ることになったこと、投稿版については、RFP(案)

をさらに検討し具体的な形を考えることになったことを報告した。

④ Web 版資料集の作成

早稲田人名データベース、学校設置関係データベース、『早稲田学報』記事データベース等の作業進捗状況について報告した。『早稲田学報』については、その前誌である『中央学術雑誌』、『専門学会雑誌』についてもデータベース化を進めている旨の報告をした。

⑤ 資料の調査・収集

退職教員のご遺族より資料の寄贈を受けたこと、学内各箇所（保健センター、社会科学学術院事務所、WAVOC、所沢総合事務センター、図書館総務課事務所、教務部事務所）のヒアリング調査を行ったことを報告した。また、大学関係者聞き取り調査では、内海愛子恵泉女学園大学名誉教授より二回にわたりお話をうかがった。

⑥ 情報発信

二月五日に第四回大学史セミナーを開催した。戸村理氏（國學院大學教育開発推進機構准教授）を講師にお招きし、「歴史のなかの私立大学経営と早稲田」というテーマでご講演いただいた。また、『早稲田大学史記要』第五〇巻（二〇一九年二月刊）に、講演録として、大学史セミナー拡大版シンポジウム（「新しくみえてきた早稲田の歴史―『百五十年史』編纂過程の成果と課題」、湯川次義氏・木下恵太氏・寺崎昌男氏）、聞き取り記録として、「早稲田大学の電算化に関する座談会」（村上義紀氏・赤座吉保氏・高木直三氏・黒田学氏）、「元常任理事（副総長）村上義紀氏に聞く」を掲載した。

二 二〇一九年度前期の状況

(一) 各委員会・会議の概要

二〇一九年度前期(二〇一九年四月～九月)は、編纂委員会が一回、編纂専門委員会が二回、第1巻編集会議が一回行われた。以下、各回の概要(日程、議題等)を開催日順に示す。

○編纂専門委員会(二〇一九年度第一回) 六月五日、一一時～一二時五五分、九九号館(STEP21) 六階会議室にて開催。委員の出席者は七名。

〈協議事項〉 1. 二〇一九年度編集体制および編集計画の件／2. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆の件／3. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針の件／4. 校閲・校正の方法の件／5. Wikiシステム構築・運用の件／6. Web版資料集の件／7. 早稲田大学大学史セミナーの件

〈報告事項〉 1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻編集会議の報告の件／2. Web版資料集の件／3. 資料調査・収集状況の件／4. 法人会議資料の目録化・デジタル化状況の件／5. 大学関係者聞き取り調査の件

○編纂委員会(二〇一九年度第一回) 七月三日、一二時一〇分～一三時、大隈会館N二〇一会議室にて開催。委員の出席者は一三名。

〈協議事項〉 1. 編纂専門委員補充に関する件／2. 二〇一九年度編集体制および編集計画に関する件／3. 『早稲

田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆に関する件／4. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針に関する件／5. Wikiシステム構築・運用に関する件／6. Web版資料集に関する件／7. 早稲田大学大学史セミナーに関する件／8. 出版に関する件

〈報告事項〉 1. 早稲田大学百五十年史編纂委員に関する件／2. 早稲田大学百五十年史編纂専門委員会の報告に関する件／3. 『早稲田大学百五十年史』第1巻編集会議の報告に関する件／4. 校閲・校正の方法に関する件／5. Web版資料集に関する件／6. 資料調査・収集状況に関する件／7. 法人会議資料の目録化・デジタル化状況に関する件／8. 大学関係者聞き取り調査に関する件／9. 執筆担当専任教員の負担代替に関する件

○第1巻編集会議(第二回)七月二十五日、一二時四五分～一三時四五分、九九号館(STEP21)六階会議室にて開催。
会議メンバーの出席者は九名。

〈協議事項〉 1. 執筆状況等の確認の件／2. 執筆内容の検討の件

○編纂専門委員会(二〇一九年度第二回)九月一七日、一一時～一三時、九九号館(STEP21)六階会議室にて開催。
委員の出席者は七名。

〈協議事項〉 1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆の件／2. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針の件／3. Wikiシステム構築・運用見直しの件／4. 早稲田大学大学史セミナーの件

〈報告事項〉 1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻編集会議の報告の件／2. 原稿編集の件／3. 出版の件／4. Web版資料集の件／5. 資料調査・収集状況の件／6. 法人会議資料の目録化・デジタル化状況の件／7. 大学関

係者聞き取り調査の件

(二) 各委員会・会議での議論の内容

以下、各委員会・会議での主な議論を適宜項目に分け、まとめていく。

① 編集体制

新たに編集委員三名(三号委員一名、五号委員二名)が就任した。また、編集専門委員の補充(二名)について協議し、承認された。その他、担当助手と嘱託職員の業務について調整が行われた。

② 編集・執筆の進展

第1巻については、項の新設など構成の調整をしながら執筆が進められた。また、校閲のための事前校正を行い、原稿の編集作業が具体的に開始された。第2巻については、引き続き構成案の検討を中心に議論がなされた。その他、刊行を依頼する出版社については、早稲田大学出版部と意見交換をし、今後より具体的に話を進めていくことになった。

③ Wikiシステムの構築・運用

通常版については、あらかじめ業者の選定を行ったうえでシステム構築を行うこととなり、一方、投稿版については、独立したものは作成せず、通常版に情報収集機能を盛り込む形とするなど、システム全体で構築・運用の方法を

再検討することになった。

④ Web 版資料集の作成

早稲田人名データベース、学校設置関係データベース、『早稲田学報』記事データベース等の作業進捗状況について報告があり、『早稲田学報』記事データベースは、明治・大正期分の目次データと明治期分の誌面データ（校友課が提供）を文化資源データベース上で公開した。また、新規データベースとして、『中央学術雑誌』等データベース（仮称）の構築について報告があった。内容は、『中央学術雑誌』（第一期、第二期）、『専門学会雑誌』、『同攻会雑誌』、『中央時論』の目次データとなる。

⑤ 資料の調査・収集

退職職員より図書資料の寄贈を受けたこと、学内箇所（理工学術院統合事務・技術センター）のヒアリング調査を行ったことを報告した。また、学外資料では、新宿歴史博物館所蔵の行政資料の調査を行い、大学関係者聞き取り調査では、学生運動関係で調査を行った。

⑥ その他

執筆担当専任教員の負担代替については、原稿料による対応措置の具体化をはかりつつ、引き続き編纂委員長等と協議をして進めていく旨の報告があった。

おわりに

この一年、第1巻については原稿の編集作業が本格的に開始され、出版社についても検討を始めるなど、刊行に向けて具体的な準備が進められた。第2巻については、構成案が項レベルで検討されるなど、その形が次第にみえてきた。また、データベースや資料収集についても、日々情報の蓄積がなされ、編纂のための資料として活用されている。

第1巻の刊行まで二年あまり。残された時間は決して多くはないが、原稿の執筆を中心に、編集等の各作業も確実に進め、無事刊行まで漕ぎつけられるよう取り組んでいきたい。